

令和8年9月1日

(一財)四国産業・技術振興センター(STEP)

5件の企業・大学等の共同研究・製品開発に 助成を行います！

STEPは、イノベーション四国*と連携し、企業の技術開発・販路開拓をはじめとするイノベティブな取り組みに対する支援を行っています。

四国の中小企業と大学・高専および公設研究所等と行う共同研究・製品開発について助成対象事業の公募を行っていましたが、この度審査の結果、次の5件を助成先として決定しました。助成金額はいずれも50万円です。

以上

「2026年度 産学共同研究開発助成事業」採択企業一覧

企業名	所在地	研究開発テーマ、概要	共同研究機関
勇心酒造株式会社	綾歌郡 綾川町	「ストレスの予防・緩和効果を有する米発酵素材の開発」	香川大学
株式会社フラスコ	西条市	「超難削材（タングステン等）に対する高温水蒸気脱炭技術とレーザー加熱を融合した次世代ハイブリッド加工の開発に向けた評価検討研究」	愛媛大学
アイム株式会社	四国中央市	「科学的可視化技術の応用によるI-SCHフィルム鮮度保持効果向上の研究」	産業技術 総合研究所
株式会社ゆうぼく	西予市	「監視カメラ画像認識AIを用いた肥育牛の起立困難検出と早期予知技術の研究開発」	香川高等専門学校
清水技研株式会社	阿南市	「民生GaN電力増幅素子を用いた小型衛星用X帯広帯域送信技術の開発」	阿南工業 高等専門学校

詳細については別紙を参照ください

(参考)「産学共同研究開発助成事業」の概要

1.支援対象	四国内に本社または事業所を持つ中小企業等
2.対象事業	企業が取り組み中または検討中の技術開発・製品開発のうち、大学・高専または公設試験研究機関等の研究者と共同で行う事業とします
3.支援対象経費	当該事業の実施に直接必要な経費（共同研究費、材料・消耗品費など）
4.研究期間	1年以内
5.実績報告	事業完了後、実績報告書を当センターに提出していただきます

* イノベーション四国（四国地域イノベーション創出協議会）

四国内の研究機関や産業支援機関などの協議会会員機関が、企業が抱える課題の解決を四国の総合力で支援する組織。会員機関が、その保有する人材、ネットワーク、機器等の資源を活用し総合的な企業支援を行っている。運営に当たっては、当センターが事務局、産業技術総合研究所と中小企業基盤整備機構が副事務局を務め、四国経済産業局が連携パートナーとして参画している。

企業名	研究開発テーマ、概要
勇心酒造株式会社	「ストレスの予防・緩和効果を有する米発酵素材の開発」 【概要】 ストレス社会化が加速するに伴い、食品でストレスを緩和しようとするニーズが高まっている。当社は抗酸化ストレス能を持続的に高める特徴を持つ米発酵エキス(ライスパワー®エキス)を保有しており、そのひとつに神経細胞のストレスを緩和できる可能性があることを発見した。本課題ではストレスによるやる気の低下を「マウスの巣作り行動」を通じて評価できる香川大学と連携し、この食品素材の機能を詳細に検証する。
株式会社フラスコ	「超難削材（タングステン等）に対する高温水蒸気脱炭技術とレーザー加熱を融合した次世代ハイブリッド加工の開発に向けた評価検討研究」 【概要】 近年、航空宇宙や半導体分野で需要が高まるタングステン等の超難削材加工において、工具の摩耗抑制とコスト低減が喫緊の課題である。本研究では、切削部への高温水蒸気噴出による脱炭作用とレーザー加熱を融合させた次世代ハイブリッド加工技術の基礎技術を開発する。切削油の削減と工具寿命の延長を両立するこのオンリーワン技術により、高付加価値加工の低コスト化と、環境負荷低減を両立するグリーン加工の実現を目指す。
アイム株式会社	「科学的可視化技術の応用によるI-SCHフィルム鮮度保持効果向上の研究」 【概要】 本研究では、当社が開発した鮮度保持フィルム「I-SCHフィルム」の効果を、産総研が開発した鮮度試験紙を用い、生菌数抑制以外の鮮度指標であるK値やうまみの指標であるイノシン酸量を用いた客観的評価を行い、鮮度保持効果の実証とともに更なる性能向上を目指す。本研究により、鮮度保持フィルムを利用した水産物の高鮮度流通が可能となり、の付加価値向上や輸出促進、食品ロス削減が実現できる。
株式会社ゆうぼく	「監視カメラ画像認識AIを用いた肥育牛の起立困難検出と早期予知技術の研究開発」 【概要】 和牛は体形問題で出荷前に起立困難となり、死亡し大きな経済損失となっている。夜間監視は肥育農家の負担が大きく、見逃しも課題となっている。昨年度から香川高専と連携し、AIを活用し起立困難牛の高精度な検出技術の開発を進めてきた。本研究開発では、精度の向上と起立困難の予防とし、カメラ画像から肥育牛の体重を自動で計測する新技術の研究を行う。最終的に牛肥育管理システム「CattLook」として完成させる。
清水技研株式会社	「民生GaN電力増幅素子を用いた小型衛星用X帯広帯域送信技術の開発」 【概要】 弊社は、自社製品として超小型衛星用広帯域無線送信機の製造・販売を目指している。約500～2,000kmの衛星一地上局間通信には電力増幅器の大電力化が必要だが、非線形歪みと温度変化によりEVMが悪化し、高速通信に用いる広帯域・高次変調信号の安定復調が困難となる。本事業では、電力効率に優れるGaN電力増幅素子に着目し、放射線照射試験、熱真空試験、高出力と変調品質を両立させる温度補償回路の設計を通して、電力増幅器を開発する。